

出張所の窓辺から

10451



淀川管内に7つある、国土交通省淀川河川事務所の出張所から職員が管内のみどころを紹介し、今回の担当は高槻出張所です。



自然観察会

域が拡大するよう、ワンド群の再生をはじめとする取り組みを三島江・唐崎・大塚・前島地区で継続実施して、整備がされたところでは近隣の環境団体等により観察会等が行われています。秋頃から三島江地区で機能改善の工事を予定しています。

鶴殿ヨシ原は淀川の中でも最大級で、歴史的・文化的・生態的に重要な場所であるので高水敷の切り下げを行うことでヨシの冠水頻度を高めてヨシ原の復元を図る工事を継続実施しています。このヨシは雅楽の筆築のリード材料として珍重されているとの事で地域の生産組合や雅楽協議会を中心に保全活動が行われています。(詳細は雅楽協議会のホームページをご覧ください)



鶴殿ヨシ原の切り下げ工事

淀川河川公園大塚地区では、「魅力発見プロジェクト」と題し、河川レンジャー・近隣学校の学生・地域住民が中心となり「観察会」「オオツカザダンカイ」などを取り組んで潜在的な魅力の掘り起こしを行っています。継続的にセミナーなど各種イベントが開催されるのでふるってご参加ください。(詳細は淀川河川公園のホームページをご覧ください)

これからも、河川と地域の交流・連携・協働を図り、川づくりを進めます。

こんにちは、今回は高槻出張所からお届けします。管理区域は高槻市と島本町で、淀川の様相は三川合流点から枚方大橋あたりは河岸に発達した寄り洲が見られ、オイカワ、モツゴ、カマツカなどが生息し、また、オオヨシキリをはじめとする多数の野鳥が生息し、トビ、チュウヒ等の猛禽類も見られます。さらに、鶴殿を代表するヨシ原が広がり、枚方大橋から下流は淀川大堰湛水区間となっています。

水域ではイタセンバラなどの多様な在来種の生息



野鳥観察会



イシカメ
クサカメ



写真提供:佐藤一成

いきものイチオシ!!
第34回

カメ
【Kame】

木津川出張所管内
河川レンジャー
長浜卓摩

「もしもしカメよ!カメさんよ!」を聴いてイメージするのは歩みがおそいかめですが、川にいる水辺のカメは違います。天気のいい日に木津川でカヌーに乗っていると、岩の上で甲羅干しをしている姿を必ず見かけます。とても気持ちよさそうにしている、大きな岩の上は何匹も並んで乗っていることも珍しくありません。岩の上ではイメージ通りゆったりとくつろ

いでいますが、人が近づくと、次々に川へダイブ!! すくさま川の深くに姿を隠し、見えなくなってしまいます。しかし、しばらくすると…まわりをキョロキョロ見渡しながら水面へ近づき、ゆっくりと岩の上へ。陸では歩みがおそいかめも、川では動きが素早く、水中では愛らしい姿で上下左右に自由自在に泳げる。私にとっては愛らしいイチオシのいきものです!

川と人、人と人を結ぶ

河川レンジャー

RIVER RANGER

NEWS

no. 63
令和5年7月発行
2023 夏号



マイ・タイムラインを作ろう!

表紙撮影地:
桂川(京都市伏見区)
平成25年9月、台風18号によって久我橋付近で越水。地域の用水路も溢れ、浸水災害が発生しました。台風シーズンを迎え、水防の備えを今一度見直しませんか。
写真提供:河村司郎

国土交通省のサイト「川の防災情報」では、全国の河川の雨量・水位情報をチェックできます。川遊び中にお天気の変化が気になったときには、ぜひご活用ください。

<https://www.river.go.jp>

河川レンジャーは淀川流域を舞台に行政と流域住民をつなぐ橋渡し役を担っています。詳しくはホームページをご覧ください。

発行責任者: 淀川管内河川レンジャー事務局
〒573-0056 大阪府枚方市桜町3-32 TEL:072-861-6801(平日9時~17時)

次号は10月発行予定です!

淀川管内河川レンジャー <https://www.river-ranger.jp>

公式LINE 始めました

※本誌掲載記事、写真、イラストの無断転載を禁じます。

マイ・タイムラインを作ろう!

マイ・タイムラインとは住民一人ひとりのタイムライン(防災行動計画)で、台風等の接近による大雨によって河川の水位が上昇する時に、自分自身がとる標準的な防災行動を時系列的に整理したものです。いつ、何を準備し、どこに避難するかを自ら考え、命を守る行動をとるためのものです。



地域のハザードを知る

どんなハザード(危険)が地域にあるかをハザードマップを見て理解します。

工夫1

授業では、校区のハザードマップに加工。目印になる建物を追記して自宅を探しやすくします。



避難先・避難方法を考える

どんな避難ができるかをフロー(流れ)で考えます。

工夫2

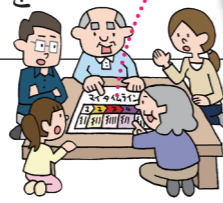
避難方法の選択肢をイラストなどでわかりやすくしています。

マイ・タイムラインを作成する

いつどんな避難準備をするかをまとめます。

工夫3

避難行動を思い起こさせるイラストシールを使います。



時間	外の状況	避難に関する機軸	行動シール
3日前	台風が発生	避難に向けてできることを考えよう	警戒レベル1 電気がつか確認する ハザード(防災)マップで避難場所と道を確認する 外にあるとびそなものを家の中にかたづける
2日前	台風がだんだん近づいてくる	避難行動を確認しよう	警戒レベル2 高齢者や避難に時間のかかる人は避難しよう! それ以外の人も避難の準備をして危険を感じたら自主的に避難しよう
1日前 半日前	雨や風が強くなる。近くの川の水位が増える	避難先や避難に時間のかかる人は避難しよう! それ以外の人も避難の準備をして危険を感じたら自主的に避難しよう	警戒レベル3 高齢者や避難に時間のかかる人は避難しよう! それ以外の人も避難の準備をして危険を感じたら自主的に避難しよう
0時間	川の氷が溶けそう 川の氷が溶け 川の氷が溶渡	全員が安全な場所に避難しよう! 外は危険なので、その場より安全な場所にいよう!	警戒レベル4 警戒レベル5

再避難シールでやり直しOK!

角倉了以の開削事業



上の写真は一の井堰、嵐山の渡月橋から少し上流にあります。人は何故川を堰き止めるのでしょうか。5世紀にこの場所に秦氏が初めて葛野大堰(かのおおい)を築いたとき、その目的は稲作のための灌漑(かんがい)でした。堰を設けてその下流に複数の流路を設ければ、川の水をほぼ一定の比率で分岐させることができます。後年、堰は水運にも活用されることとなります。現在ここには手漕ぎボートや観光船の発着場がありますが、堰の上流では流速が穏やかになり、水面が安定するからです。今から遡ること約400年の江戸初期、京の豪商角倉了以は保津川を開削し、丹波から嵐山に至る航

路を開通させました。そして丹波の材木は筏に組まれて米や野菜は船に載せられてここに到着したのです。了以はさらに嵐山から京の市中に至る運河を開削しました。写真の右端に一の井堰で本流から分岐した狭い水路が見えます。これが嵐山から嵯峨・太秦と三条通のやや南を流れ市中へと続く西高瀬川の始まりです。現在は昭和初期の天神川改修の影響で桂川から西高瀬川に入った水は天神川に流れこんでいますが、当時は天神川と交差してJR二条駅南の千本三条あたりに至っていました(明治期に南進して鴨川へ)。今でも三条通り沿いや千本通り沿いに材木商が何軒か見受けられるのは当時の商業地の名残です。了以はこの他に京の東部から伏見港に至る高瀬川・東高瀬川の開削に着手したことも知られます。

さて、物流の役目を終えた西高瀬川の今はどうなっているのか、川に沿って歩いてみました。天神川より東側では流れ込む川もなく晴天時に水は殆ど流れていません。三条通では暗渠(あんきょ)化による道路拡幅も進行中です。コンクリートで固められた川に今求められているのは豪雨時に雨水を素早く天神川、鴨川へ放出する役割です。そんな中見つけた場所が水辺環境改善の一環で作られた三条坊町公園(右の写真)。子ども達が水に親しむ場として役立てばよいと思います。



※暗渠とは・地下に埋設したり、ふたをした水路 ※灌漑とは・農作物の生育に必要な水を、水路を引くなどして供給し、耕作地をうるおすこと。



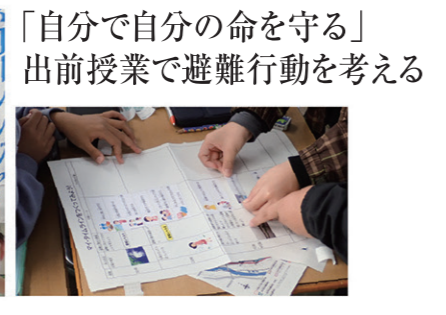
地域で取り組んでいます

河川レンジャーでは、このマイ・タイムラインを地域で広げていくため、自治会の防災講座や学校での出前授業に取り組んでいます。レンジャーならではの工夫で年間2千人近くの方が作成しています。



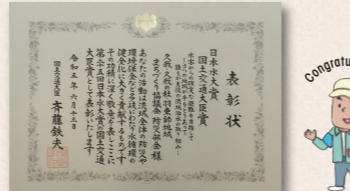
出前講座受付
お申込はこちらから
river-ranger.jp

「逃げ遅れゼロ」を目指して自治会・自主防災会と連携

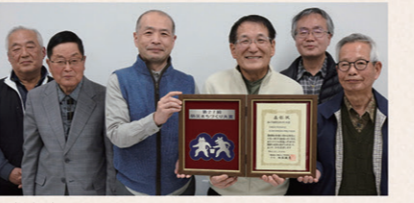


「自分で自分の命を守る」出前授業で避難行動を考える

第25回日本水大賞 国土交通大臣賞他受賞



河川レンジャーが10年以上連携して防災活動を進めてきた伏見区の久我・久我の社・羽東師地域協議会防災部会が第25回日本水大賞の国土交通大臣賞他を受賞しました。この地域では、自治会未加入世帯へ防災を啓発するため、小学校でのマイ・タイムライン授業をレンジャーと防災部会の役員の方と一緒に進めています。



防災部会のみなさん (第27回防災まちづくり大賞 日本防火・防災協会会長賞受賞時)

[Column]

「三方よし」の伏見ジュニア河川レンジャーの活動

(原則下記1②③を1セットで実施)

学習①
港町伏見を伝える「十石船」に乗って川の観察・伏見みなと広場見学

学習②
濠川・宇治川派流の川辺の生物を観察しながらの川の清掃活動

学習③
伏見のまち、川について出張講座で学習会

地域活動賞を受賞しました。河川レンジャーアドバイザー 中川雄介

この活動は近代土木遺産である三桧間門を活用し、郷土愛を育む活動が評価され、令和4年度の土木学会関西支部地域活動賞を受賞しました。



京都の南に位置する伏見は川と共に歴史を歩んだまち。かつては京都・大坂・奈良・近江の中継地にあたり、複数河川の流れ込む港町として舟運の要衝でした。その様な足跡をもつ伏見で、まちの地域性や魅力を未来に伝えていきたいと思い、地域の方々

京都の南に位置する伏見は川と共に歴史を歩んだまち。かつては京都・大坂・奈良・近江の中継地にあたり、複数河川の流れ込む港町として舟運の要衝でした。その様な足跡をもつ伏見で、まちの地域性や魅力を未来に伝えていきたいと思い、地域の方々

います。この活動がなぜ、長い期間継続できたのか?少し客観的に考えてみると、そこには簡単な原則があります。それは「三方よし」。

近江商人の理念等がよく語られる、超有名な原則。私たちの活動は、自分の趣味で!とか、自分を満たすため!という考えでは成立しません。①私たちの活動を支援する河川事務所、②活動に参加する小学校、③そしてステージとなる地域。この三方が納得してくれて(もしくは有益と認めてくれて)成立しています。

郷土の歴史を学び、郷土を愛する心を育むこの活動が、今後も世をこえ、まちについて楽しく考える地域の輪づくりに寄与できるなら、これからも頑張れるかな?と思っています。



三桧間門を通して郷土の歴史を学ぶ